

小 学 校

平成 30 年度

# 教育研究員研究報告書

特別活動

東京都教育委員会

## 目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	目指す児童像	2
III	研究の視点	4
IV	研究仮説	4
V	研究の方法	4
VI	研究構想図	6
VII	研究の手だて	7
VIII	研究の視点と手だての関係性	8
IX	一連の活動のつながりと手だての関係図	9
X	研究の手だてと児童の変容	10
XI	実践研究報告	16
XII	調査研究の結果と分析	22
XIII	研究の成果と課題	23

## 自己有用感を高める学級活動 ～児童が成長を実感できる「一連の活動」の指導の工夫～

### I 研究主題設定の理由

近年、知識・情報・技術を巡る変化の速さが加速度を増している。情報化やグローバル化、人工知能の普及・進化による社会的変化は、人間の予測を超えて進展しつつある。この社会的変化の中、児童は様々な社会的・文化的背景をもつ他者と関わり、複雑化・困難化した社会や文化と向き合って生きている。学習指導要領改訂の基本方針にあるように、児童には予測できない変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して、自らの可能性を發揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となっていく力を身に付けることが求められている。自他を尊重しながら、異なる意見や考え方を基に新たな価値を創造的に生み出す力を育むために、特別活動の担う役割は大きいと言える。

「PISA2015年協同問題解決能力調査―国際結果の概要―」（国立教育政策研究所 平成29年9月）によると、15歳を対象に行われた「他人と協力して問題を解決する能力」を測った調査では、日本は参加52カ国・地域中2位という成績を取っている。このことは、課題解決能力に重点を置く近年の教育現場の取組や、グループ活動の中で協調性を重視する日本の教育が好成績につながったと考察されている。しかし、「高校生の生活と意識に関する調査報告書―日本・米国・中国・韓国の比較―」（国立青少年教育振興機構 平成27年8月）によると、米中韓の生徒に比べ、日本の生徒は「自らの参加により変えてほしい社会現象が少し変えられるかもしれない」という社会認識における意識が相対的に低く、自治的能力の育成が課題であると言える。本研究の実態調査「あなたは、学級の役に立っていると感じることはありますか。」という調査項目に対しても、35.5%が否定的な回答をした。

これらの結果から、集団の中での自己の役割や価値、可能性について不安を抱いている児童が多いことが分かる。また、自他の成長を肯定的に受け止め、次に生かすという経験の不足や、「自分は人の役に立っている」と感じる自己有用感の低さが背景にあると考察できる。さらに、特別活動の視点から考察すると、特別活動は「なすことによって学ぶ」ことを方法原理としているが、「各活動や学校行事において身に付けるべき資質・能力は何なのか」、「どのような学習過程を経ることにより資質・能力の向上につながるのか」ということが必ずしも意識されないまま指導が行われてきたという実態がある。

そこで、本研究では、特別活動の学びの基盤である学級活動に焦点を当て、学習過程における「一連の活動」を意識した授業改善を行う。教師が一連の活動を通して、児童の問題意識を高め、児童が成長する喜びを実感できる指導を行うことで、集団の中で互いのよさを伝え合い、個人や集団がよりよくなるために自分ができることを考えて実践しようとする児童が育成できると考えた。そこで、研究主題を「自己有用感を高める学級活動～児童が成長を実感できる『一連の活動』の指導の工夫～」と設定し、研究を進めていく。

## II 目指す児童像

- 個人や集団がよりよくなるために、自分ができることを考えて実践する児童
- 集団の中で、互いのよさを伝え合う児童

本研究では、よさを「過去や現在の姿を振り返って表出するもの」、よりよくを「未来に向けて実現を目指すもの」として捉え、小学校学習指導要領（平成 29 年 7 月告示）解説・特別活動編の特別活動で育成を目指す資質・能力に沿って、以下のように整理した。

個人のよさ	集団のよさ
<ul style="list-style-type: none"> <li>○自己を認識することで、可能性を見いだすこと</li> <li>○自己の目標に向けて、可能性を発揮すること</li> <li>○自己の成長に気付き、向上しようとする事</li> <li>○他者が気付かないことに気付くこと</li> <li>○他者のよさを認め、自己に生かそうとすること</li> <li>○他者の言動によって、自己が成長できたと感じられること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自他のよさを認め合えること</li> <li>○自他の個性を尊重すること</li> <li>○自他のよさや可能性を発揮すること</li> <li>○自他の目的や目標に向けて、互いの意見や考えをもとに、様々な解決法を模索したり、折り合いを付けたりすること</li> <li>○自他の成長を実感できること</li> </ul>

	身に付けさせる力の具体例	よりよい姿
知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>○集団で活動する上での様々な困難を乗り越えるためには「何が必要になるのか」という理解</li> <li>○集団と個の関係についての理解 →集団でなくては成し遂げられないこと、集団で行うからこそ得られる達成感があること</li> <li>○集団活動の価値の理解 →集団活動のよさや社会の中で果たしている役割、自己の在り方や生き方との関連</li> <li>○集団や人間関係をよりよく構築していく中で大切にすべきことを理解し実践できるようにすること</li> <li>○基本的な生活習慣、学校生活のきまり、社会生活におけるルールやマナー及びその意義について理解</li> <li>○課題解決に向けて行動することの意義や必要となること、大切にすることの理解 →現在及び将来の自己の課題との関連における学習意義を理解し、課題解決に向けて意思決定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「～するのであるなら、～する必要があるよね」（発言・行動）</li> <li>○「友達と協力したからこそ、今回は成功した。」 「〇〇さんが、係の仕事でもないのに、率先して動いていた。」 (発言・ワークシート)</li> <li>○「これからの生活の中で～を〇〇というように生かしていきたい。」 (ワークシート)</li> <li>○「友達の考えを認めてあげることが大事だ。」 (発言・ワークシート)</li> <li>○「ルールの大切さが分かった。」「きまりがあったから楽しめた。」 (発言・ワークシート)</li> <li>○「自分の課題は～だから、次回は～のように改善できるようにしたい。」 (発言・ワークシート・行動)</li> </ul>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">思考力、判断力、表現力等</p>	<p>○人間関係をよりよく形成していく力 →互いを認め合いながら、助け合ったり協力し合ったり、すすんでコミュニケーションを図ったり、協働したりする。</p> <p>○集団をよりよいものにしたり、社会に主体的に参画したりしていく力 →自分自身や他者のよさを生かしながら、集団や社会の問題について把握し、合意形成を図ってよりよい解決策を決め、それに取り組む。</p> <p>○現在及び将来に向けて自己実現していく力 →自己のよさや可能性を発揮し、置かれている状況を理解し、それを生かしつつ意思決定することや、情報を収集・整理し、興味・関心、個性の把握などにより、将来を見通して自己の生き方を選択・形成する。</p>	<p>○「〇〇さんの意見は～というところがいいね。」 「手伝うよ。一緒にやろう。」 「こうやって進めるといいよ。」 「〇〇さんは～と言いたいのだよ。」 (発言)</p> <p>○「〇〇さんの考えも取り入れて～というようにしていこうよ。」 「意見が分かれているのですが、解決策を言える人はいますか。」 「〇〇さん、また後で伝えてください。」 (発言)</p> <p>○「私はAとと思っていましたが、〇〇さんの意見と理由をきいてBという意見に賛成します。」 「意見は同じなのですが、理由がちがいます。」 「〇〇さんと似ていて、私もCの意見に賛成です。なぜなら～だからです。」 「〇〇さんの意見に加えて、～にするとより提案理由を達成できると思います。」 (発言)</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">学びに向かう力、人間性等</p>	<p>○よりよい人間関係を築こうとする態度 →多様な他者の価値観や個性を受け入れ、助け合ったり協力し合ったりする。</p> <p>○よりよい生活をつくろうとする態度 →集団や社会の形成者として、多様な他者と協働して、集団や生活上の諸問題を解決する。</p> <p>○日常生活や自己の在り方を主体的に改善しようとしたり、将来を思い描き、自分にふさわしい生き方や職業を主体的に考え、選択しようとしたりする態度</p>	<p>○「いつもは〇〇さんと仲良しだけど、今回は〇〇さんと一緒に取り組んでみよう。」 (ワークシート)</p> <p>○「学級の一員として、今回の～を成功させるためには、自分は～というめあてをもって〇〇会に貢献したい。」</p> <p>○「前回の課題は〇〇だった。だから、今回は～というような集会にしていこう。」 (ワークシート)</p> <p>○「次は、もっと積極的に参加しよう。」 「自分は〇〇が苦手だけど、頑張って取り組んでみよう。」 (発言・ワークシート)</p>

児童のよさやよりよい姿を明確にすることで、一連の活動における児童の言動を積極的に価値付けていくとともに、指導と評価の一体化を図っていく。

### Ⅲ 研究の視点

目指す児童像を踏まえ、研究主題に迫るための二つの視点を設定し、研究を進めていく。

#### 視点1 問題意識を高める

一連の活動において、教師が適切な助言や意図的な指導を行うことで、児童の問題意識を高めることができる。個人や集団がよりよくなるために、自分ができることを考える活動を積み重ねさせることで、自己有用感を高めることができるようになると考えた。

#### 視点2 喜びを味わわせる

児童が活動の振り返りを行うときに、教師は「自他のよさを伝える」という視点を明確にして助言を行う。児童はそれを基に振り返りを記入し、自他のよさを伝え合うことで、喜びを味わうことができる。また、一連の活動における児童の成長の様子を可視化し、喜びを味わわせることで、自己有用感を高めることができるようになると考えた。

### Ⅳ 研究仮説

学級活動において、教師が一連の活動を通して、児童の問題意識を高め、児童に成長する喜びを味わわせる指導を積み重ねることで、児童は集団の中で互いのよさを伝え合い、個人や集団がよりよくなるために自分ができることを考えて実践しようとする児童を育成できるであろう。

### Ⅴ 研究の方法

#### 1 調査方法

- (1) 調査研究・・・質問紙による
- (2) 調査対象・・・教育研究員の所属する都内公立小学校 10校  
第3学年～第6学年 計2,508名
- (3) 調査実施時期・6月上旬、11月中旬
- (4) 調査項目

調査内容を、A「問題意識に対する項目」、B「自己有用感に対する項目」、C「一連の活動への意識に対する項目」に分類した。

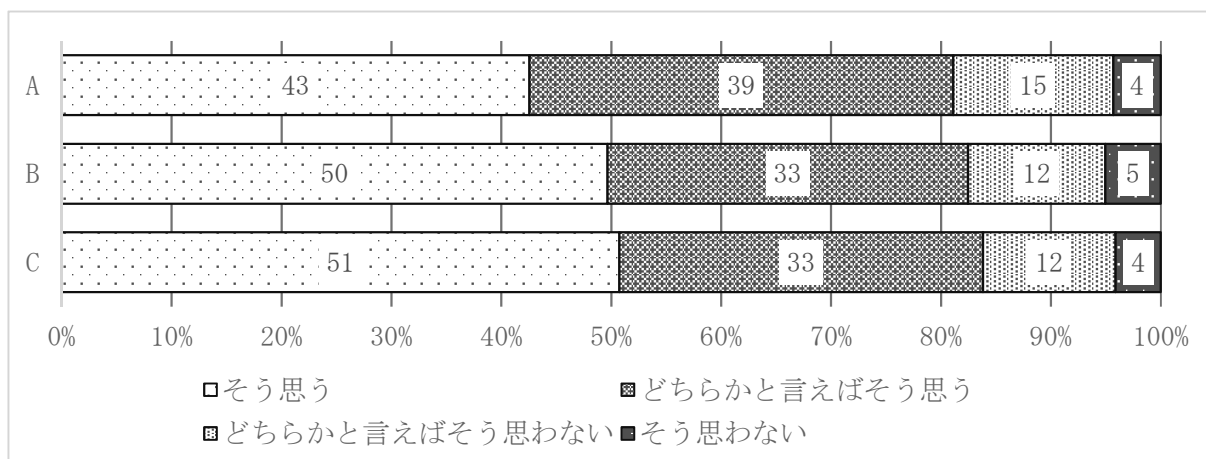
A	ア	あなたは、学級をよくしようと考えていますか。
	イ	あなたは、学級会での話合いの前に自分の意見をもっていますか。
	ウ	あなたは、学級会での話合いの前に自分のめあてを決めていますか。
	エ	あなたは、学級会で決めたことに取り組んでみて、さらに学級をよくしようと考えますか。
B	オ	友達は、あなたの意見や思いを聞いてくれますか。
	カ	あなたは、友達のよさを見付けようとしていますか。
	キ	あなたは、学級の役に立っていると感じたことはありますか。
C	ク	あなたは、学級会での話合いの場面では、自分の思いを伝えていますか。
	ケ	あなたは、学級会で友達の思いを分かろうとしていますか。
	コ	あなたは、学級会で決めたことに取り組もうとしていますか。
	サ	あなたは、学級会での振り返りを次の活動やこれからの生活に役立てようと思いますか。

#### 2 研究実践

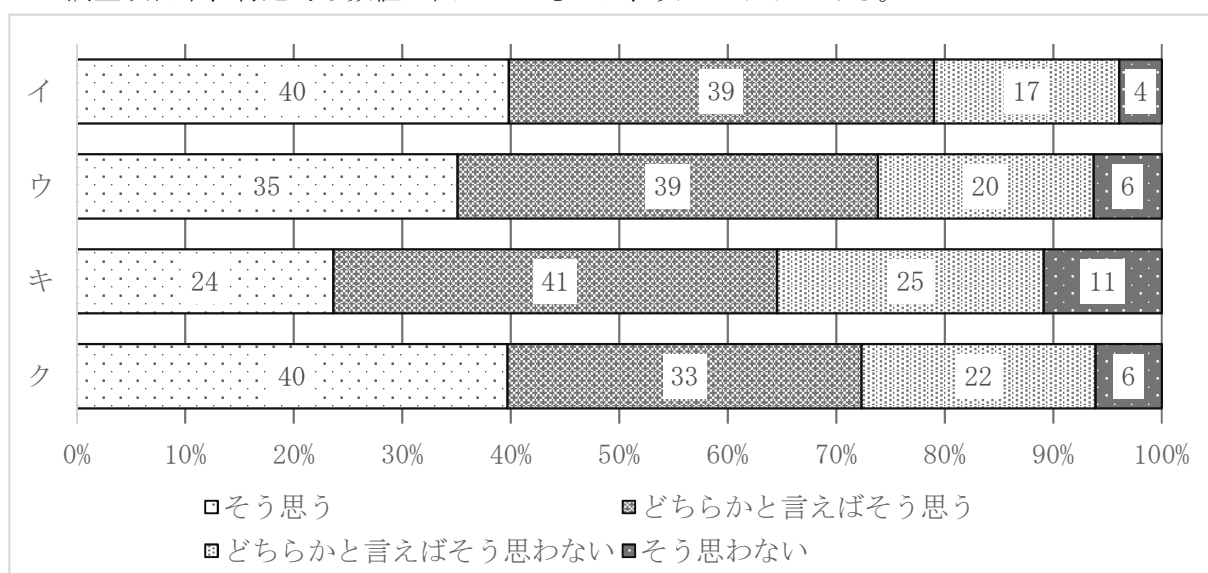
検証授業を通して、研究仮説と手だての有効性について検証する。

### 3 事前調査結果

次のグラフのAは調査項目ア～エ、Bは調査項目オ～キ、Cは調査項目ク～サの平均値である。



調査項目中、肯定的な数値が低かったものは、次のとおりである。



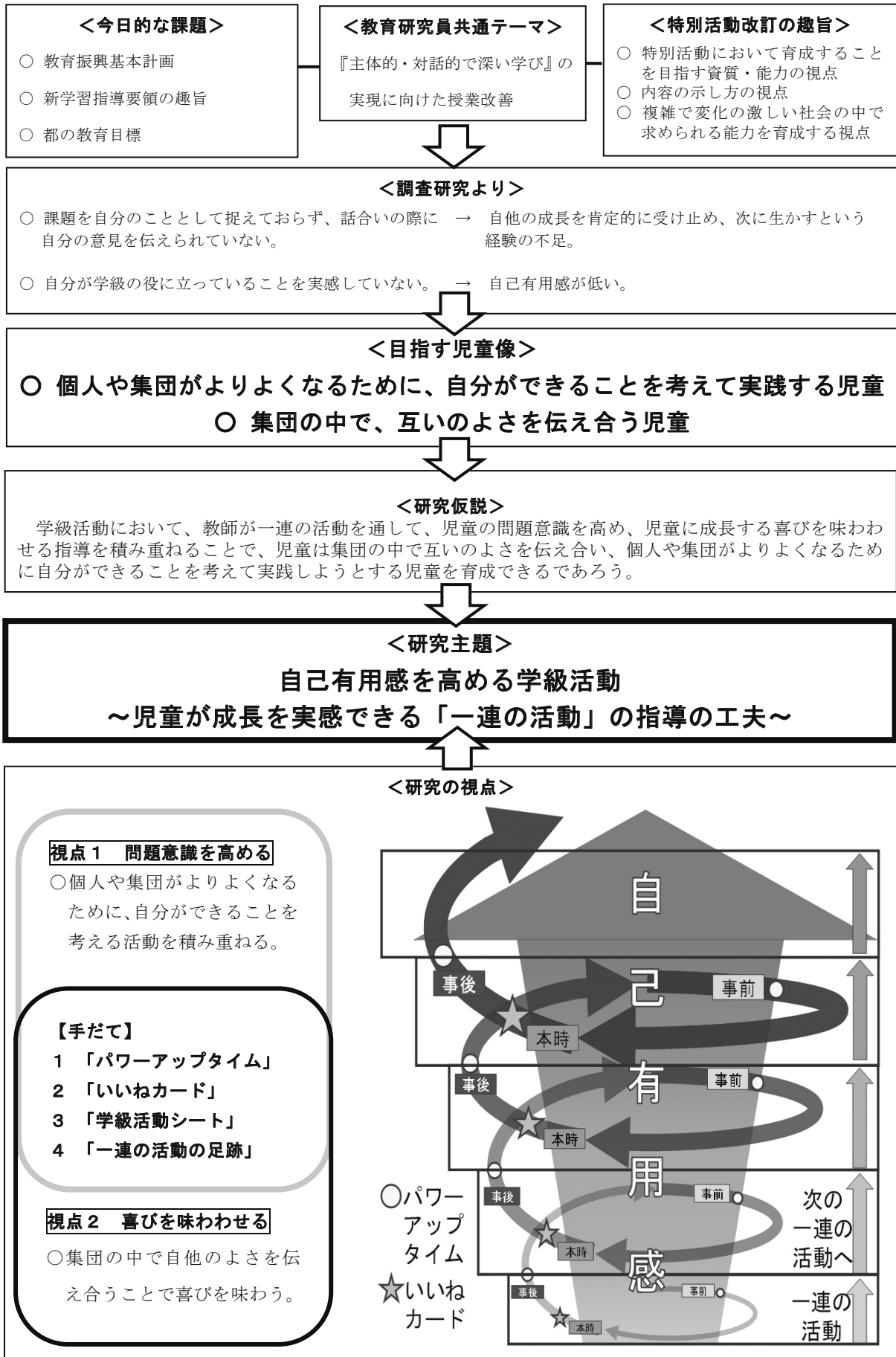
分類項目Aの質問イで21%、質問ウで26%の児童が否定的な回答をしている。そこから、個人や集団がよりよくなるために、自分ができることを考えることに課題があることが分かった。

学級会での話合いの前に、自分の意見をもっていると答えた児童は40%であり、学級会中に自分の考えをもつ児童が60%いることが分かる。加えて、学級会前に自分のめあてを決める児童は35%であり、65%の児童がめあてを決めずに学級会をした経験があることも分かる。

また、分類項目Bの質問キで36%の児童が否定的な回答をしており、「そう思う」と答える児童の割合が24%と他の質問項目に比べると極端に低い。そのことから、集団の中で、互いのよさを伝え合う経験を積み重ねる必要があると分かった。

さらに分類項目Cの質問クで28%の児童が否定的な回答をしていることから、自分の思いを伝えることで集団の一員として一連の活動がよりよくなると、児童に認識させることが重要であると考えた。

## VI 研究構想図





## Ⅶ 研究の手だて

研究仮説を検証するため、以下の四項目の手だてを設定し、検証授業を行った。

### 1 「パワーアップタイム」の設定 (p10参照)

教師の指導の下、朝の会や帰りの会を活用し、学級指導の時間を設定する。

#### (1) パワーアップタイム 1 回目

話し合い活動の前に、提案理由について考えたり、情報を収集したりして、自分のめあてや考えをまとめるなど、議題について問題意識を高める時間。

- 学級の児童が、議題や提案理由について共通の認識をもって学級会へ参加できるようにしたり、活動意欲が高まった状態で学級会に臨めるようにしたりする。

#### (2) パワーアップタイム 2 回目

一連の活動の終わりに、活動の成果や過程、自分のめあてについて振り返り、成長を実感させるとともに、次の一連の活動へ向けての意欲付けや方向付けを行う時間。

- 一連の活動を振り返り、成果と課題を共有するとともに、自分や学級の成長に気づき、次の一連の活動に向けての活動意欲が高まるようにする。

### 2 「いいねカード」の活用 (p11参照)

学級会の振り返りと実践の振り返りに活用する。児童間で自他のよさを伝えるためのものである。児童は「いいねカード」の交流により、自分の成長や友達のよさについて気付くことができる。また、「いいねカード」を「学級活動シート」に貼り、友達からの言葉を形として手元に残すことで、自分の成長を実感できると考えた。

### 3 一連の活動を意識できる「学級活動シート」の活用 (p12-p13参照)

小学校学習指導要領解説特別活動編には、特別活動の各活動・学校行事全てに一連の学習過程が図示されている。学級会の話し合いだけではなく、問題の発見から振り返りという「一連の活動」を通して、各学習過程において身に付ける資質・能力を高められるようにするとともに、その学びを児童が実感できるものにしたいと考えた。そのため、問題の発見から振り返りまでの学習過程を一枚のワークシートに示すことで、一連の活動をより明確に意識できると考えた。

### 4 「一連の活動の足跡」の作成 (p14-p15参照)

一連の活動の記録を模造紙等にまとめたものである。一連の活動における集団としての成長を可視化することで、学んだことを振り返り、活動のよさを実感したり、次の活動への意欲につなげたりすることができると考えた。また、活動の前に、前回の課題について振り返ったり共有したりすることで、次回の課題に向けて、主体的に自分に今できることを考えて行動することができるようにする。

## Ⅷ 研究の視点と手だての関係性

### 1 学級活動（1）における一連の活動について

本研究は、一連の活動の積み重ねを通して、児童に成長を実感させることで、自己有用感を向上させることを目的としている。一連の活動とは、小学校学習指導要領（平成29年7月告示）解説・特別活動編に記載されている「問題の発見・確認」「解決方法等の話し合い」「解決方法の決定」「決めたことの実践」「振り返り」を通じた学習過程のことである。

また、この学習過程は「事前の活動」、「本時の活動」、「事後の活動」の三段階に分けられている。各活動及び活動と活動の間（矢印部分）に手だてを講じ、積み重ねていくことで、児童の自己有用感を向上させようと考えた。

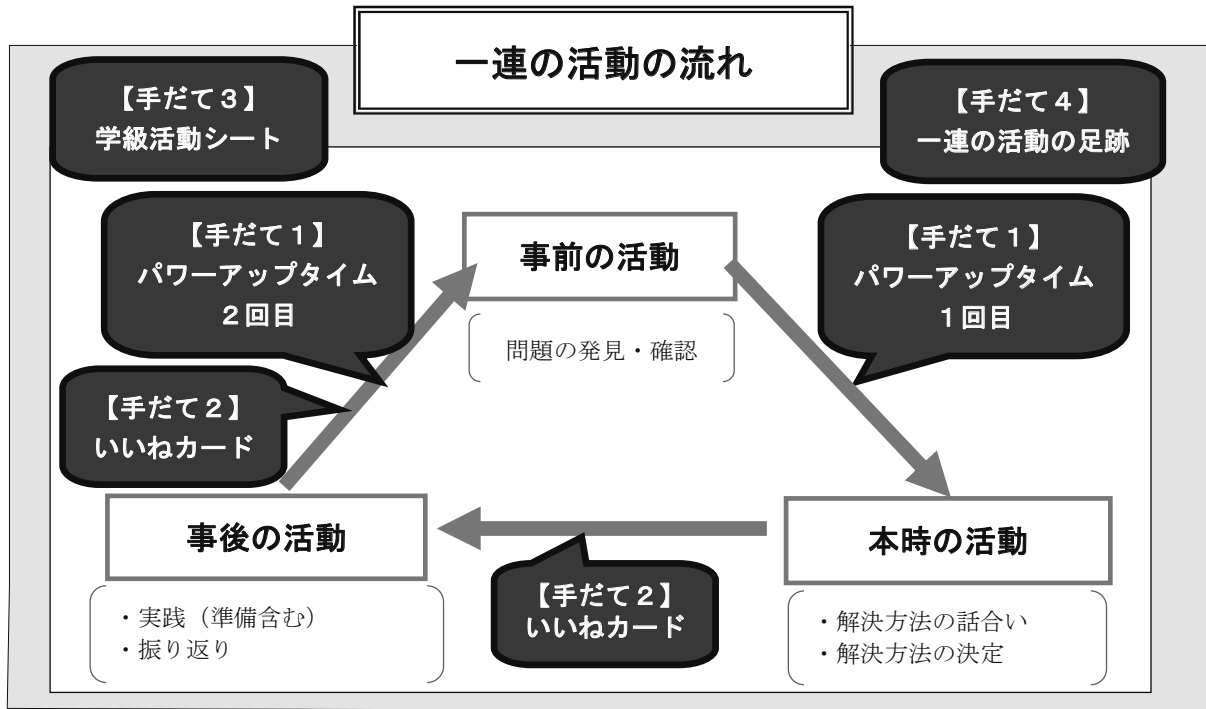
### 2 研究の視点と手だての関係性について

児童の自己有用感を向上させるためには、児童が学級会に臨む前に、「学級をよりよくするために何かできることはないか。」や、「前回よりもっとよくするためにできることはないか。」のような問題意識を高める必要があると考えた。（視点①）⇒**関連【手だて1、3、4】**

また、学級活動（1）の実践を通して、集団の中で自他のよさを伝え合い、成長を実感させることで児童に喜びを味わわせる必要があると考えた。（視点②）⇒**関連【手だて2、3、4】**  
そこで、下記の四項目の手だてを設定した。

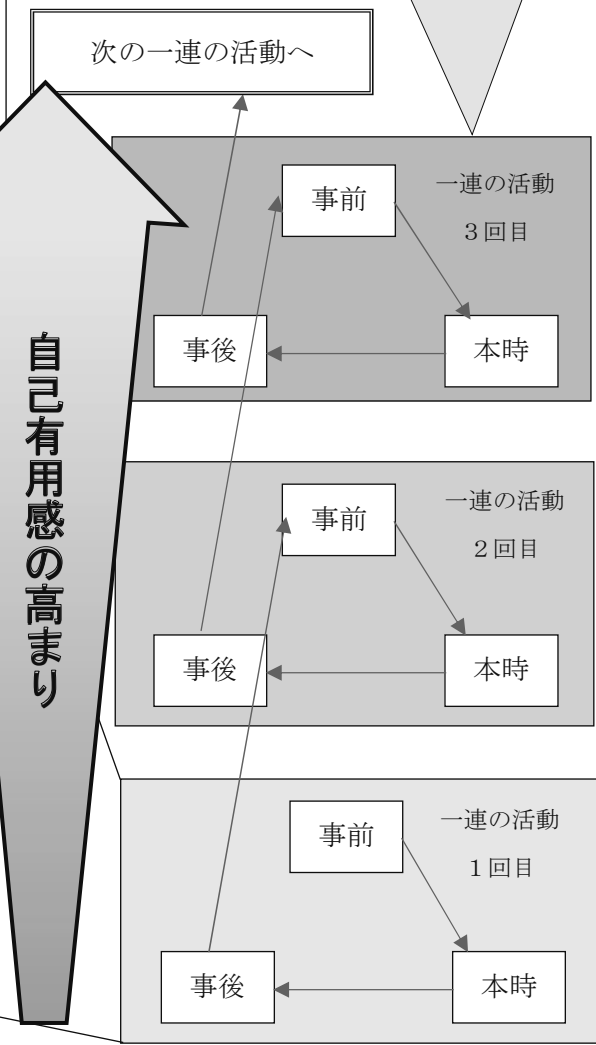
手だて		活 用 の 場 面
【手だて1】	パワーアップ タイム 1回目	○ <b>計画委員会と学級会の間</b> 計画委員会で選定された学級全体で話し合うべき議題及び提案理由を、児童が共有・確認をし、問題意識を高めた状態で学級会へ臨めるようにする。
	パワーアップ タイム 2回目	○ <b>一連の活動の最後</b> 一連の活動の成果と課題等を児童に共通理解させ、次の一連の活動に向けた意識付けをした上で、目標を立てさせる。
【手だて2】	いいねカード 1回目	○ <b>学級会終了時</b> 学級会で力を発揮した児童には称賛の言葉を、できなかった児童には励ましの言葉を書いたカードを渡し、思いを伝える。これにより、渡した側、渡された側双方の児童に、友達の役に立ったという喜びを味わわせる。
	いいねカード 2回目	○ <b>一連の活動終了時</b> 目的は1回目と同様であるが、内容は実践の準備や実践の際の様子について書かせる。
【手だて3】	学級活動 シート	○ <b>一連の活動を通して</b> 各活動における目標や振り返り、自分の役割等を記入し、活動や自分の考えの記録とする。
【手だて4】	一連の活動の 足跡	○ <b>一連の活動を通して</b> 教師が、一連の活動の中の、各活動の際に決まったことや、その様子などを随時更新し、掲示する。児童が活動のよさを実感したり、今自分にできることは何かを考えたりするのに役立てるようにする。

Ⅹ 一連の活動のつながりと手だての関係図



**研究の視点①：問題意識を高める**  
 ○個人や集団がよりよくなるために、自分ができることを考える。【関連する手だて1、3、4】  
**研究の視点②：喜びを味わわせる**  
 ○集団の中で、自他のよさを伝え合うことで喜びを味わう。【関連する手だて2、3、4】

決めたことの実践、振り返り	事後の活動	学級活動シート【手だて3】	パワーアップタイム 2回目【手だて1】
			実践の振り返り
			いいねカード【手だて2】
解決方法等の話し合い、解決方法の決定	本時の活動		実践
			実践の準備
			学級会の振り返り
問題発見・確認	事前の活動		いいねカード【手だて2】
			学級会
			パワーアップタイム 1回目【手だて1】
			計画委員会



(1回の一連の活動を通じた内容と手だて)

## X 研究の手だてと児童の変容

### 1 【手だて1】「パワーアップタイム」の実施

(1) 「パワーアップタイム」1回目（学級会の前）

ア 目的

- 議題・提案理由等を理解し、課題を自分のこととして捉えられるよう意識付け、学級会への活動意欲を高める。

イ 方法

- 「一連の活動の足跡【手だて4】」を活用して、前回の活動を振り返り、課題を明確にもつ。
- 「学級活動シート【手だて3】」をもとに、議題や提案理由に沿って、学級会での個人のめあてを設定する。
- 話し合うことについての自分の考えをもつ。
- 一連の活動を通して、「いいねカード【手だて2】」を用いて積極的によさを伝えるペアを決める。
- ペアの相手とめあてを伝え合う。

ウ 留意点

前回の一連の活動を踏まえ、「何のために行うのか」「どういう実践をしたいのか。」など、一人一人が問題意識を高めた状態で話し合い活動に取り組めるように指導を行う。

#### 児童の反応例

提案理由を実現するために、どんなことができるかなあ。

こんな提案理由に変更した方が、前回の課題を生かして考えてやすい。

小さい反応ではなくて、友達の意見に大きく反応するようにしたい。

自分から、提案理由に沿った発言をするよ。

めあてを達成できるようにがんばろうね。

(2) 「パワーアップタイム」2回目（学級集会の後）

ア 目的

- 一連の活動を振り返り、自分や学級の成長に気づき、次の活動につながるよう意欲を高める。

イ 方法

- 「いいねカード【手だて2】」「学級活動シート【手だて3】」「一連の活動の足跡【手だて4】」を活用し、一連の活動における振り返りを行う。
- 「学級活動シート【手だて3】」の自分へのいいねの欄を記入し、自分の成長を実感させる。

ウ 留意点

「前回までの自分と比べる」という視点を明確に示し、個人内評価をさせる。具体的に成長した場面を想起できない児童には、教師が個別に声掛けし、児童の成長を価値付ける。

提案理由に沿った意見を言うことができた。

前回の課題になった学級会で友達の意見に反応することを意識している人が多かった。

学級集会の準備で、友達と協力してルールがみんなに分かるように画用紙に書いた。

友達のよいところをたくさん発見したよ。

エ 児童の変容

- 「パワーアップタイム」を行うことで、学級会で提案理由に込められた思いや、実践後のゴールイメージを学級全員で共通理解することができるようになってきた。
- 一連の活動での学びを、次の活動へと生かそうとする気持ちが高まった。

## 2 【手だて2】「いいねカード」の活用

### (1) 「いいねカード」1回目（学級会の後）

#### ア 目的

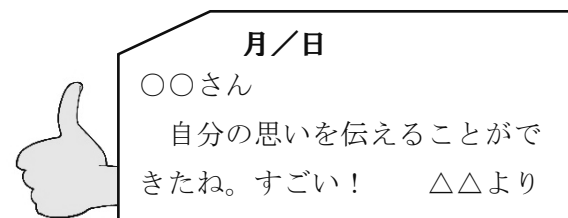
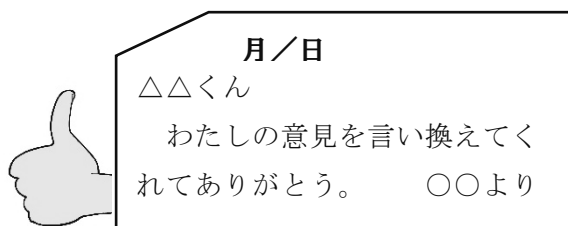
話し合いの場でのよさを形にして手元に残す。

#### イ 方法

教師が「パワーアップタイム1回目【手だて1】」でペアを指名する。学級会終了後、ペアの友達の反応、気づき、成長等に対して記入し、渡す。

#### ウ 留意点

1回目は青色の用紙に印刷する。  
また、学級会では、意図的にペアで隣同士に座らせる。司会や友達の意見に対する反応や、小グループでの活動を見取るには、隣同士が適している。



### (2) 「いいねカード」2回目（集会活動の後）

#### ア 目的

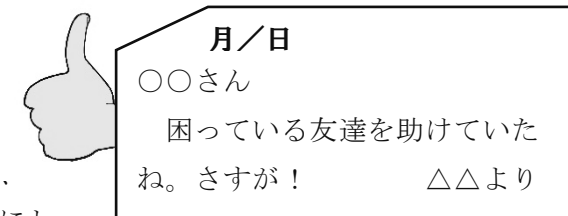
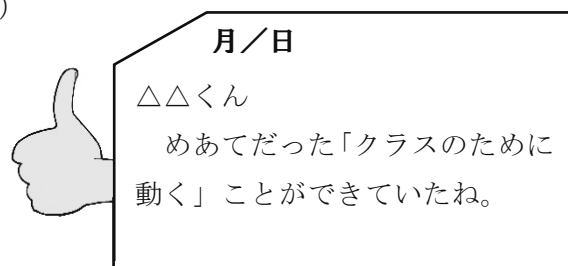
集会活動までの友達のよさを形にして手元に残す。

#### イ 方法

計画から集会までの場面の反応、気づき、成長等を集会後に記入して渡す。

#### ウ 留意点

2回目は黄色の用紙に印刷する。色を変えることで、一連の活動の振り返りでは、いつの「いいねカード」なのか分かるようにし、「書きたい」「渡したい」という児童の反応に答えられるようにする。



#### エ 児童の変容

- 友達のよさを見付けられるようになった。
- 自分が頑張ったことに気付いてもらえた。頑張ってよかったと思えるようになった。
- 自分では気付かないよさを教えてもらい、もっと何かできないか考えるようになった。
- 友達のよさを発見して、すぐに伝えることができた。
- どのような行動をとることが学級のためになるかを考えるようになった。
- 自分に自信をもてるようになった。

### 3 【手だて3】一連の活動を意識できる「学級活動シート」の活用

#### ア 目的

学級会の話し合いだけでなく、問題の発見から振り返りという「一連の活動」を通して、児童一人一人がめあてや意見をもったり、友達から認められたりする活動を一枚のワークシートに示すことで、自分の成長や次への課題を実感できるようにする。

#### イ 方法

<p>(A)</p>	<p>○ パワーアップタイムで自分に何ができるかを考える。</p> <p>○ パワーアップタイムでは、議題の確認や提案理由を深め、決まっていることの確認をする。その後、学級会での自分のめあてを考え記入し、ペアで共有する。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">児童の記述例</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>○自分のめあて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意見を1回は言う。</li> <li>・友達の意見に必ず反応する。</li> <li>・司会や黒板記録をできる限り、サポートする。</li> </ul> </div>
<p>(B)</p>	<p>○ 視点を明確にして振り返る。</p> <p>学級会と実践について振り返る際に以下の三点の視点を明確にして振り返る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>①自分のこと ②友達のこと ③クラスのこと</p> </div> <p>この三点について考えることで、自分や友達、学級のよかった点や課題について意識し次回の学級活動につなげられるようにした。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>○学級会の振り返り</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①今日は賛成しか言えなかったから、次は意見をもって参加する。</li> <li>②〇〇くんの合体の意見がよかった。</li> <li>③時間内に話し合いができていた。</li> </ol> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>○実践の振り返り</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①準備をする時に友達に声をかけて一緒にできた。</li> <li>②〇〇さんが、みんなで話し合っ て納得できるようにしていた。</li> <li>③みんなで盛り上げようと司会グループに協力していた。</li> </ol> </div>
<p>(C)</p>	<p>○ 「いいねカード」を貼り、自分の頑張りを残す。</p> <p>学級会と実践後に「いいねカード」を友達からもらい貼ることで、自分の活躍を他者視点で確認し振り返ることができる。</p> <p>また、一連の活動を振り返るパワーアップタイムでは、自分の頑張りを自己分析し、「自分へのいいね」を書く。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: right;">月/日 〇〇さんへ</p> <p>アイデアをたくさん考えていてすごい！ □□より</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: right;">月/日 □□さんへ</p> <p>おばけやしきで工夫しておどろかしていたね 〇〇より</p> </div>
<p>(D)</p>	<p>○ 一連の活動を一枚のシートで確認する。</p> <p>一連の活動を一枚のシートで確認することで自分の成長や友達からの評価、学級の成長や課題が明確となる。したがって、次の活動を更に改善しようとする意識を高められる。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>○一連の活動の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・男女仲良くするためにもっと話し合っていきたい。</li> <li>・これで終わりではなく続けていきたい。</li> <li>・もっと楽しい遊びを考える。</li> </ul> </div>

特別活動 第  回 学級活動シート

年 組 名前 ( )

日程	内容	①自分のこと	②友達のこと	③クラスのこと
学級会まで ( ) ( ) 日	学級会までの準備	議題 オリジナル仮装パーティーをしよう	提案理由 オリジナルの仮装パーティーを開き、遊びを通してクラスの仲を深めたいから。	決まっていること 時期：10/31 5時間目 場所：教室が使える。 その他：学校にあるもので準備をする。全員仮装をする。
		自分のめあて 司会グループが困っていたら助けられるようにする。	(A)	
		意見 話し合うこと①「クラスの仲を深める内容」 ・仮装 ・おぼけやしき ・わたしはだれでしょうゲーム	話し合うこと②「クラスの仲を深める工夫」 ・かざり付け ・黒板にメッセージ ・ハイタッチして交流する。	
	学級会	① めあてが達成できたので、次はレベルアップしためあてを決めて達成したい。		
		② ○○さんが前日からみんなが活躍する方法を考えてきていてすごかった。 △△さんの司会の進行が上手だった。		
		③ 相づちをしていた人が多く、よい意見を言っている人も多くてびっくりした。 どの意見も大切にしようとして、意見をくっつけようとしていた。		
		次の学級会に向けて もっと発言したい。友達のよい意見を取り入れる。		
実践まで ( ) ( ) 日	実践までの準備	かざりの作り方を友達に教えながら一緒に作る。		
	実践	① みんなと協力しておぼけやしきを作ることができた。 もう少し準備する時間があれば、もっと楽しくできた。		
		② ○○くんの仮装が怖くてよかった。 △△さんが中心となって声掛けしてくれて助かった。		
		③ 全員が自分の仕事をして準備をしていたので、責任をもってできていた。 みんなの仲が深まってきた。		
	次へ	○○さんみたいにたくさん考えて、みんなが納得するような意見が言いたい。		

第  回 学級活動をふり返って、自分へのいいね！を書こう (D)

準備の時に、友達の役に立てるように手伝いができた。 (C)

「いいね！カード」をはるところ。

ウ 留意点

- 議題、提案理由、決まっていることは、計画委員で仮決定し、パワーアップタイム1回目には記入されたものを印刷して配布する。太枠の部分は、パワーアップタイムで扱う。

エ 児童の変容

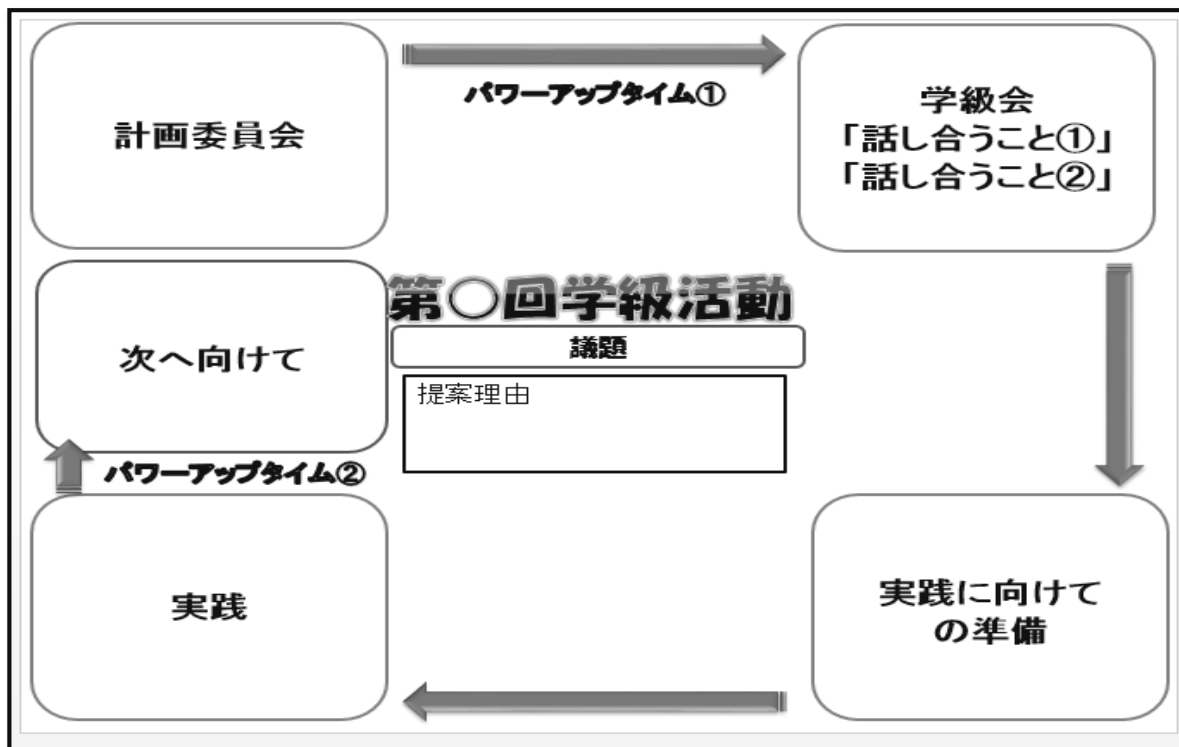
- 学級会だけでなく、その前後にある「計画委員会」や「実践に向けての準備」などのつながりについても、常に確認する児童が増えた。
- 学級会でうまくいかなかったとしても、次の実践への準備で頑張ろうとするなど、活動を場面だけで捉えず、一連の活動のよさに気付く児童が増えた。

#### 4 【手だて4】「一連の活動の足跡」の活用

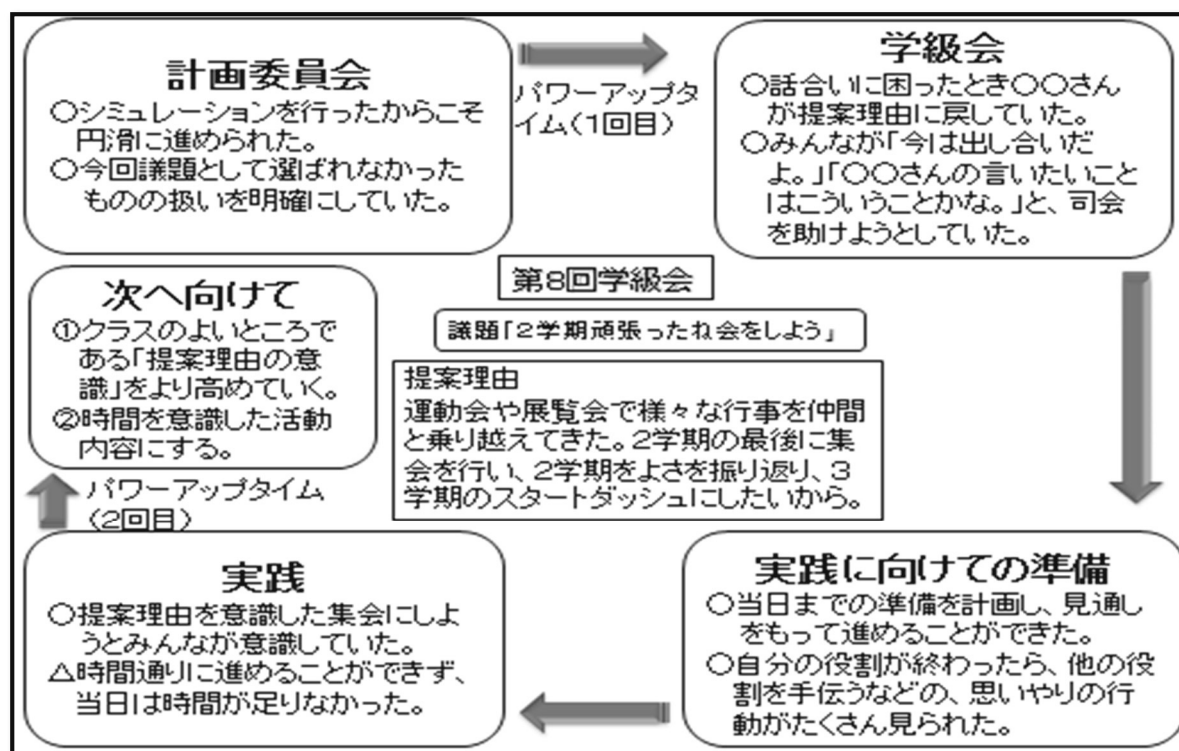
ア 目的

学級としての成長を可視化し、集団としての成長を客観的に知ることで、成長を実感するとともに、一連の活動を積み重ねられるようにする。

○ 「一連の活動の足跡」の例



○ 実際に活用した「一連の活動の足跡」





## イ 方法

### ① 計画委員会

今回議題として選ばれなかった議題案の扱いや、学級会シミュレーションでの様子、司会グループ以外のメンバーが準備を手伝っていたことなどを書く。

### ② 学級会

進行を助けていた発言、提案理由に基づいた発言、自分の意見と友達の見解をつなげていた発言や、司会グループへのねぎらいなど、学級会中に見られた児童の姿から更に伸ばしたい点などを具体的に書く。また、時間通りに進められなかったことなど、学級として次回に向けて取り組ませたい課題についても書くようにする。

### ③ 実践に向けての準備

学級全員で役割分担した後、実施に向けての準備の様子を書く。例えば、見通しをもって活動に取り組んでいた様子、自身のよさを生かしていた様子などである。議題によっては、準備が必要ないものもあるため、この項目を作らない場合もある。

### ④ 実践

学級集会や学級全員で決めた取組の様子について書く。学級として成長した様子、提案理由を意識して取り組んでいた様子など、また、次回に向けて取り組ませたい課題点も書く。

### ⑤ 次にに向けて

パワーアップタイムでこれまでの活動を振り返り、特に学級全員で成長したことと意識したいことを書く。ここに書かれたことが次回の学級活動に生かす視点となる。

## ウ 留意点

- 児童が見たくなるように、写真やイラスト等も取り入れながら記入する。
- 模造紙などの大きなサイズで作成することが望ましいが、教室掲示のバランスを見て、画用紙等で作成するのもよい。また、パソコンで作成し、電子黒板等に投影したり、拡大紙に印刷したりすることも考えられる。
- パワーアップタイムで用いたり、その場で作成したりすることで、学級全員で共通理解を図ることができる。

## エ 児童の変容

- 計画委員会が「一連の活動の足跡」を見ながらシミュレーションするなど、前回の活動を生かすことができた。また、パワーアップタイム【手だて1】で活用したり、児童が確認しやすい位置に掲示し、常に確認できるようにしたりすることでより効果が高まった。
- 学級のあゆみの積み重ねにもなり、学級への所属感が高まった。高学年になり、活動を繰り返すと、児童自身で話し合い、この足跡を作成することも考えられる。

## XI 実践研究報告

第1回 検証授業（平成30年9月20日） 第5学年

議題	イトコほめほめ集会をしよう		
提案理由	<p>前は一部の人を中心とした集会になってしまった。次はほかの人たちもみんなの前で活躍したい。また、タイミングよく自分の気持ちを友達に伝えることができなかった。だから、この集会をきっかけにみんなが自然に友達のいいところを見つけてそれをほめ合えるようになりたいと思ったから。</p>		
話し合うこと	<p>①どんなことをするか決める。 ②ほめやすい工夫を決める。</p>	<p>決まってること</p>	<p>集会 9月27日（木）3校時 場所 教室 一人一人が友達をほめやすい遊びにする。</p>
児童の実態及び指導について	<p>本学級の実態として、人前で自分の意見を主張することに苦手意識をもっていることが課題である。思っていたことがあってもその場で自分の言葉を伝えることができない児童が多い。そこで今回の実践では、児童一人一人がより積極的に参加できるものを促す。これをきっかけに児童全員が自然に友達のいいところを見付け、それを認め、伝え合うようになっていくことをめあてとして指導する。</p>		

事前の活動  パワーアップタイム①	手だて	児童の言葉	児童の様子
	一連の活動の足跡  学級活動シート	<p>「前回の集会是司会とお笑い担当の人が中心となって集会を盛り上げてくれてとても楽しかった。」</p> <p>「今回は一人一人がみんなの前でできるものがしたいな。」</p> <p>「何のためにこの学級会をするのかが分かった。」</p> <p>「友達のめあてを聞いて、友達が頑張ろうとしていることが分かった。」</p> <p>「学級会が始まる前に自分なりの考えをもてた。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達から自分のよさを価値付けてもらい、喜びを感じていた。</li> <li>・前回の活動を振り返り自分たちの課題を見いだしていた。</li> <li>・一連の流れが分かり、見通しをもっていた。</li> <li>・友達のめあてを意識して、頑張りを認めようとしていた。</li> <li>・学級会に向けて問題意識を高めるとともに、自分の考えをもっていた。</li> </ul>

本時の活動	一連の活動の足跡	「話し合い活動の前に改めて課題に対して意識がもてた。」	・ 前回の課題を振り返りながら話し合いに向かっていた。
	学級活動シート	「自分の考えを発表することができてよかった」 「今回、一人一人がみんなの前でできるものになってよかった。」	・ 考えたことを基に提案理由に沿って発言していた。 ・ 前回の課題を意識した話し合いになっていた。 ・ 友達の言動のよさを見付け、伝え合う姿が見られた。
	いいねカード	「自分とはちがう友達のよさを見付けることができた。」 「自分の考え方をほめられて嬉しかった。」	・ 友達から自分の考えを認められ、満足そうにしていた。 ・ いいねカードを受け取るとき、喜びながらシートに貼っていた。

事後の活動	学級活動シート	「友達と協力して準備ができたので実践が楽しみになった」 「学級会ではあまり発表できなかったけれど、準備はがんばった。」	・ 助け合ったり協力し合ったりして、準備しようとする姿が見られた。 ・ 自分の役割を自覚して準備していた。
	いいねカード	「こんなに人からほめられることがうれしいとは思わなかった。」 「友達が自分のことを〇〇のように思っているとは知らなかった。」	・ 自分たちで実践したことで、達成感を味わっていた。 ・ 友達から褒められて、友達のよさを感じていた。
	一連の活動の足跡	「もっと工夫していいものにした。」 「次は学級のことだけでなく、学校に関わることをしたい」	・ 実践したことで、経験が広がり深まったりしていた。 ・ 新たな課題を見いだしていた。

次の一連の活動へ	児童の変容	
	<p>「学級活動シート」を活用することで、話し合いや集会だけでなく、準備も含めて提案理由に沿って実践する児童が増えた。今の課題は何かを意識して話し合っている姿が多くみられた。「いいねカード」を書くことで、互いのよさを伝え合う喜びを実感している。はじめはうまく友達のよさを見付けられなかったが、回を重ねるごとにすすんで書くことができるようになった。これらの活動から児童自身が成長していることに気が付くようになった。また学級から学校へと、自分たちから学校全体へと自分たちの活動を広めたいという問題意識をもつ児童も見られた。この一連の活動の積み重ねにより、児童は自己有用感の高まりを実感することができていた。</p>	

第2回 検証授業（平成30年10月2日）第4学年

議題	みんなで協力ニコニコ集会をしよう		
提案理由	2学期になって、自分の考えを言い合うことが増えてきた。もっとみんなのことを思って助け合い協力して遊べば、みんなが笑顔になってもっと仲よくなるから。		
話し合うこと	① どんな遊びをするか決める ② どんな工夫ができるか決める ③ どんな係が必要か決める	決まってること	日時 10月16日（火） 場所 体育館 行う遊び 3つ
児童の実態及び指導について	1学期は、学年目標である「一致団結」を意識して議題を選定し、集会を行ってきた。2学期になり気心が知れたこともあり、小さなことで互いに意見を主張し合い小さなトラブルになることが多くなった。そこで、互いに気持ちがよくなるような言葉をかけ合い、助け合い仲良くなる集会がしたいとの声が上がった。みんなで遊ぶと楽しいし仲が良くなるという1学期の経験を思い出し、更に仲を深めていくためにはみんなで協力することが大切であるということを丁寧に指導する。		

事前の活動  パワーアップタイム①	手だて	児童の言葉	児童の様子
	一連の活動の足跡	「一回目の集会は、説明している人の話をあまり聞けなかったけど、だんだんと人の話を聞くようになったね。」	・今までの活動を振り返り自分たちの課題を見い出し、問題意識を高めていた。
	学級活動シート	「友達のをさを伝え合える工夫を遊びに入れたら、もっと仲良くなるよね。今回は、意見を言いたいな。」	・実践で何をするのかを理解することで、話し合い活動でのめあてや意見をもつことができ安心していた。
		「この前は、リアクションをするというめあてにしていたけど、できるようになったから、次は発表するというめあてにしよう。」	・前回の自分を振り返り、できることを増やしていこうとする主体的な姿が見られた。
		「発表をしなくても、友達の話聞いてリアクションをすることもよいことなんだな。先生や友達が認めてくれてうれしいな。」	・教師（友達）から自分の考えを価値付けてもらい、喜び（安心）を感じていた。
	「一連の活動シートに考えを書くことができよかった。話し合いでは、発表しよう。」	・自分の考えをもち、できるようになったことを実感し、話し合いに向けて期待をもつ姿が見られた。	

本時の活動	一連の活動の足跡	「1学期の集会では、勝ち負けがある遊びで楽しめなかったことがあったよね。勝ち負けがない遊びだとみんな助け合って仲良くできるんじゃない。」	・前回の学級活動での課題を生かして考えていた。
	学級活動シート	「なるほど。〇〇さんの話を聞いて、勝ち負けがないカウントダウンゲームをやってみると助け合えると思います。」 「友達のいいことをたくさん見付けられてうれしいな。もっと書きたい。」	・友達の考えを認め、伝え合い、満足していた。 ・友達のよさを見付け、うれしそうにいいねカードに書いていた。
	いいねカード	「いいねカード、どうもありがとう。意見を言ったとき、うなずいてくれて僕もうれしかったよ。」	・いいねカードを受け取る側は、喜びながらシートに貼っていた。 (渡す側も同様に) ・友達の言動のよさを見付け、伝え合う姿が見られた。

事後の活動	学級活動シート	「このルールだとみんなが仲良くなれるかな。こっちはどう。」 「今回は、うまくルール説明できなかったから、またクラス遊びでもう一回やってみたいな。」	・提案理由を意識して、どのルールにすれば友達と協力できる遊びになるか考えていた。 ・うまくいかなかったことを新たな課題として見出し、意欲をもっていた。
	いいねカード	「友達を助ける言葉をかけていて、いいなと思ったよ。わたしも次は言いたいな。」	・友達から褒められて、自分のよさを感じていた。
	一連の活動の足跡	「今回の集会は、準備からみんな協力して楽しんでいた。次も協力してやろう。」	・学級の成長や課題を話し合い、次の集会へ期待をもつ姿が見られた。

次の一連の活動へ	児童の変容	
	<p>パワーアップタイム①で、「一連の活動の足跡」を見ながら前回までの学級活動を振り返ったり議題を共通理解したりすることで、問題意識が高まった。一連の活動を意識しながら「学級活動シート」を書くことで、話し合いや集会だけでなく準備も含めて提案理由に沿って主体的に実践するようになった。さらに、「いいねカード」を活用し互いのよさを伝え合うことで、喜びを味わい、自己有用感が高まった姿が見られた。これらの一連の活動を積み重ねることが、次の活動への意欲となっている。</p>	

第3回 検証授業（平成30年11月2日） 第5学年

議題	みんなでわはは集会をしよう		
提案理由	クラスの仲はよくなってきたけれど、学年全体を見てみると、時々けんかもある。学年全体で協力する集会をしたら、クラスの仲もよくなるし、学年としても団結できるから。		
話し合うこと	①どんな遊びにするか決める ②仲が深まる工夫を決める	決まっていること	集会 11月16日（金）6校時 場所 体育館 協力できる競争ではない遊びにする。
児童の実態及び指導について	<p>本学級の児童は、楽しい活動を計画・実行することを通して、学級の問題を解決しようと意欲を高めてきている。計画を立てることや楽しく充実した学級を創ることに充実感を味わっている。また、計画を立てる力や運営する力などを身に付けることができるということも実感していることが振り返りから分かる。</p> <p>計画委員会では、みんなの仲をより深められる集会をしたいという意見が挙がった。各学級での活動は少しずつ活発になっているが、学年での交流が少ないことや、学級を横断し、協力して計画・運営する機会が設定されていないことに気付いた。学級から視野を広げた学年という集団で、より仲を深めるにはどのような工夫が必要か、計画の綿密さや時間の配分など、準備における協力も重要なことを気付かせることができるよう指導する。</p>		

事前の活動 パワーアップタイム①	手だて	児童の言葉	児童の様子
	一連の活動の足跡	<p>「前回の集会の遊びを決めるときは、意見を発表する人が少なかったから、できるだけくさんの人の意見を聞けるといいね。」</p> <p>「集会では、係の活動を頑張っていたことを友達から褒められて嬉しかった。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の活動を振り返り自分たちの課題を見いだしていた。</li> <li>・友達から自分のよさを価値付けてもらい、喜びを感じていた。</li> </ul>
	学級活動シート	<p>「〇〇さんが、司会を助ける発言をしていたのがよかった。」</p> <p>「ペアの人のめあてを聞いて、頑張っていると思った。」</p> <p>「みんなで協力して集会を盛り上げられたので、仲が深まった。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よさを見付ける視点が広がった。</li> <li>・友達のめあてを意識して、頑張りを認めようとしていた。</li> <li>・個人だけでなく、集団のよさに気付いて発言する姿が見られた。</li> </ul>

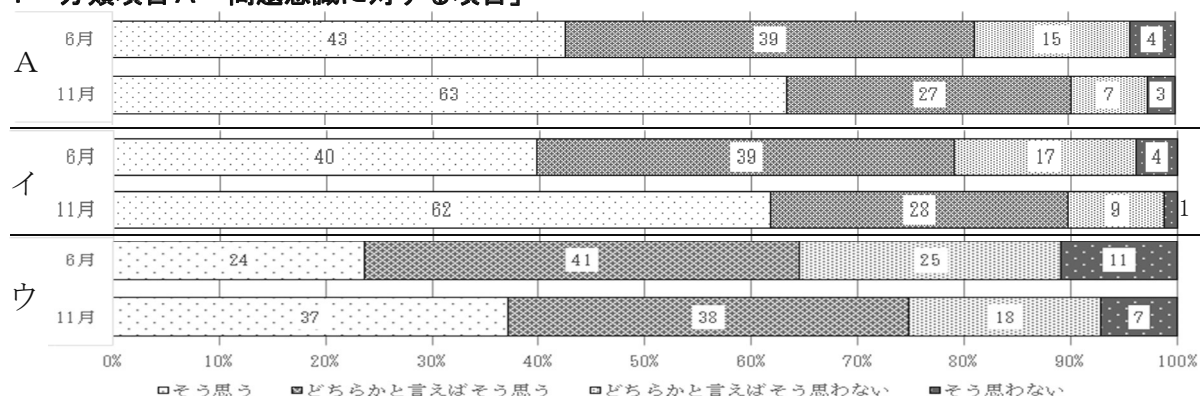
本時の活動 話し合い活動	一連の活動の足跡	「〇〇さんが提案理由を大事にしながら発言していたのがよかった。」	・前回の課題を振り返りながら話し合いに向かっていた。
	学級活動シート	「〇〇さんが前回の集会での課題のことを考えながら意見を発表していたのがよかった。」	・考えたことを基に、比べて考えを深めていた。
	いいねカード	「みんなの意見を聞きながら学級会を進めていてよかった。」	・友達の言動のよさを見付け、伝え合う姿が見られた。

事後の活動 準備 実践 パワーアップタイム②	学級活動シート	「係のリーダーとして、〇〇さんが頑張っていた。」 「準備が大変だったけれど、みんなに喜んでもらったので、やってよかった。」	・自分の役割を自覚して準備していた。 ・自分たちで実践したことで、達成感を味わっていた。
	いいねカード	「〇〇さんが盛り上げるために頑張って声を出していたのがよかった。」	・よさの視点を広げていた。
		「困っているときに〇〇さんに協力してもらえて助かった。」	・友達と協力することのよさに気付いていた。
	一連の活動の足跡	「学年で楽しい集会をすることができたから、次は1年生を喜ばせられる集会をしたい。」	・新たな問題意識をもつことができた。

次の一連の活動へ	児童の変容	
	パワーアップタイム①で扱った一連の活動の足跡では、前回の学級会で司会を助けられなかったことを課題と捉え、改善する姿が見られた。学級活動シートで見通しをもって取り組み、いいねカードで互いのめあてに対して称賛することで、自他のよさに気付いた。伝え合うことで自分が友達の役に立ったという実感が得られた。パワーアップタイム②では、自他及び学級のよさを見付けながら、課題にも着目し、次回の学級活動への問題意識を高めることができた。「一連の活動」を積み重ねることにより自己有用感の高まりを実感することができていた。	

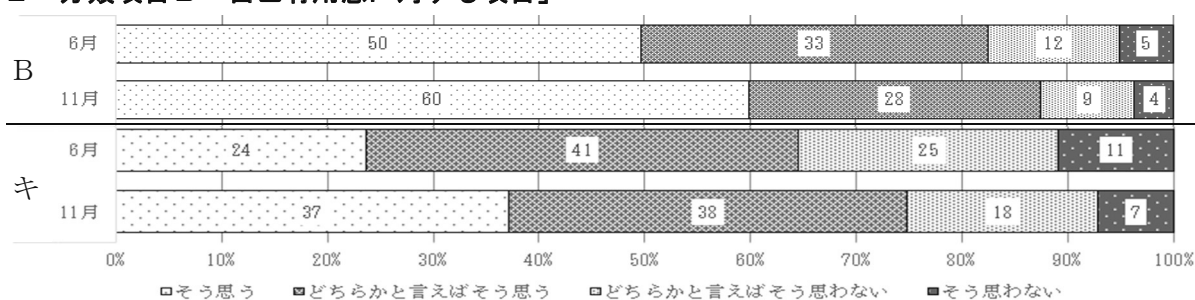
**XII 調査研究の結果と分析**(11月の事後調査は教育研究員が担任する学級のみを対象としている。)

**1 分類項目 A 「問題意識に対する項目」**



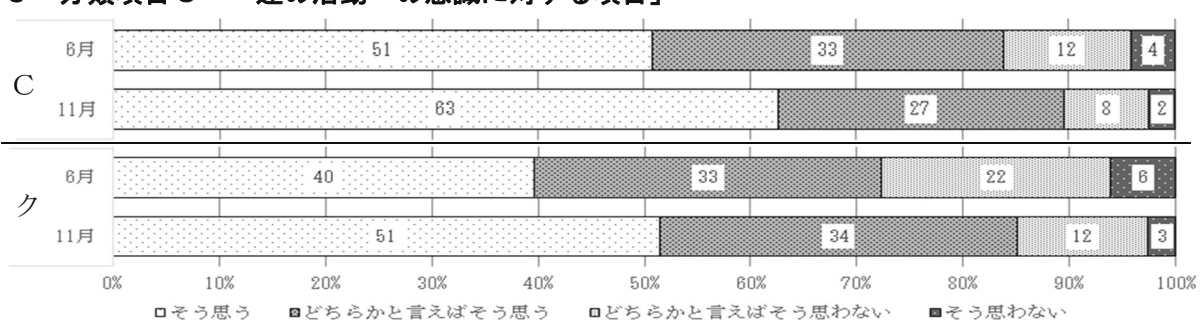
「そう思う」と答えた割合が20ポイント上昇した。肯定的に答えた児童が少なかった質問イ「学級会での話合いの前に自分の意見をもっていますか」、質問ウ「学級会での話合いの前に自分のめあてを立てていますか。」では、以下に示すとおり、イは「そう思う」と答えた児童が40%から62%、ウは35%から68%といずれも大きく上昇した。このことから、問題意識を高めるための手だて「パワーアップタイム」が有効であったと考えられる。

**2 分類項目 B 「自己有用感に対する項目」**



肯定的に答えた児童が83%から88%と上昇が見られた。肯定的に答えた児童が少なかった質問キ「あなたは、学級の役に立っていると感じることはありますか。」では、以下に示すとおり、「そう思う」と答えた児童が24%から37%と上昇した。このことから、自分の成長や友達のよさに気付くための手だて「いいねカード」「学級活動シート」が有効であったと考えられる。

**3 分類項目 C 「一連の活動への意識に対する項目」**



肯定的に答えた児童が84%から90%と上昇が見られた。肯定的に答えた児童が少なかった質問ク「学級会での話合いの場面では、自分の思いを伝えていきますか。」では、以下に示すとおり、「そう思う」と答えた児童が40%から51%と上昇した。このことから、学んだことを振り返り、活動のよさを実感したり、次の活動への意欲につなげたりするための手だて「一連の活動の足跡」が有効であったと考えられる。



## XII 研究の成果と課題

検証授業及び調査結果から、本研究の成果と課題について以下にまとめた。(P7 参照)

### 1 成果

#### 視点1 問題意識を高める

##### (1) 集団の一員としての参画意識の向上

教師の適切な指導の下、一連の活動における一人一人の振り返りを可視化し、共有する場を設定することにより、「自分から自分たちへ」「個から集団へ」という意識が芽生え、自他のよさや可能性を生かそうとする力が高まった。 **【手だて1・2】**

##### (2) 自主的、実践的な活動の高まり

学習過程における活動相互の関連付けを丁寧に行うことで、話し合い活動でうまくいかなかったり、事後の活動でうまくいかなかった経験を生かしたり、経験から学んだことをさらに発展させたりするなど、一連の活動の積み重ねの中で主体的な活動意欲を高めることができた。 **【手だて2・3・4】**

##### (3) 目的意識・課題解決意識の向上

本時の活動だけでなく、事前や事後の活動も含めて提案理由に沿って実践する児童が増えた。「何のために話し合うのか」や「どのように行うのか」など、目的に立ち返ったり、前回の活動を生かしながら準備や実践を行ったり、自他の課題を解決したりしようとする意識が高まった。 **【手だて1・3・4】**

##### (4) 「集団や社会の形成者としての見方・考え方」の高まり

前回の一連の活動における成果と課題をもとに、次の活動に向けて議題を提案する児童も増えた。また、議題の内容が学級だけにとどまらず、学年や学校での問題など、幅広く考えられるようになった。 **【手だて1・3・4】**

#### 視点2 喜びを味わわせる

##### (1) よさやよりよい姿を見付ける視点の明確化

事前の活動の中で、自分の目標を他者に伝えることで、課題を達成しようという活動意欲が行動として表れていた。相手を意識していることから、互いのよさを見付ける視点を明確化することができた。 **【手だて1・2】**

##### (2) 学級集団としての所属意識の高まり

本時の活動だけでなく、一連の活動における児童の相互評価を通して、様々な他者から感謝の言葉が返された。事後の活動でも、児童相互で役割を明確にした準備や実践での活躍した振り返りの紹介など、互いのよさを伝え合うことで、自分が他者や学級の役に立っているという喜びを実感することができた。 **【手だて2】**

(3) よさや可能性を認め合う場の広がり

学級に居心地のよさを感じる児童が増えた結果、学級活動だけでなく、朝の会や帰りの会、児童会活動、クラブ活動、学校行事などにも自分のよさを生かそうとする姿が見られた。学級の枠を越えて自他のよさを見付けようとする活動に広がっていった。また、「もっとこうしたらよくなるよ。がんばろうね。」という励ましの声も聞こえてくるようになった。互いの可能性を伝え合う大切さや成長する喜びを実感することができた。

**【手だて2・3】**

(4) 振り返る力の高まり

一連の活動を振り返ることができるポートフォリオに基づいた個人内評価により、自己の学びを見つめ直すことができるとともに、自己や学級の成長を実感し、自信をもって生活づくりに参画しようという意識を高めることができた。

**【手だて3】**

## 2 課題

(1) 個に応じた「指導と評価の一体化」

一連の活動を通して、児童一人一人や学級全体の様子を具体的に捉え、意図的に指導に生かすことにより、個人だけでなく集団の成長につながり、学級集団としての質も高まってくるのが分かった。そこで、更に高めるためには、活動相互における具体的な評価の場や時期、方法を明らかにすることが必要あると考える。

教師が事前の活動から事後の活動までの一連の活動を「指導チェックリスト」などを活用して振り返り、児童の自己評価や相互評価を参考に、個人や集団の変容を客観的に評価し、教師自らの指導計画や指導方法の改善に生かすことのできるような研究を引き続き行っていきたい。

(2) 学習過程における資質・能力の明確化

「主体的・対話的で深い学び」の実現には、一連の学習過程において、どのような資質・能力を育もうとするのかを明確にした上で、意図的、計画的に指導することが大切であることを実感した。

本研究が考える「よりよい姿」を学習過程に沿ってさらに見直しを図るとともに、より汎用性のあるものに改善していく必要がある。

(3) 研究の手だてにおける考察の深化

研究仮説に迫るための具体的な手だてとして、二つの視点に沿って検証を行ってきたが、自己の活動を振り返ったり、他者からの肯定的な評価を知ったりするなど、他者との豊かな関わりを通して、自己有用感が育まれることが分かった。さらに、それぞれの視点における手だてについての考察を深めていくことで、より効果的な指導方法を追究していきたい。

## 平成 30 年度 教育研究員名簿

### 小学校・特別活動

学 校 名	職 名	氏 名
中野区立平和の森小学校	主任教諭	宮口 大介
杉並区立杉並第六小学校	主任教諭	清野 純子
練馬区立開進第四小学校	主任教諭	久地浦 邦弘
足立区立西伊興小学校	教 諭	隈元 就仁
葛飾区立西小菅小学校	主任教諭	◎兼近 真慈
江戸川区立江戸川小学校	主任教諭	太田 一平
八王子市立式分方小学校	教 諭	吉井 貴彦
立川市立第十小学校	主任教諭	伊藤 宏章
昭島市立武蔵野小学校	主任教諭	佐藤 真由美
調布市立滝坂小学校	指導教諭	松本 寛子

◎世話人

[担当] 東京都教職員研修センター研修部教育経営課  
指導主事 角田 恒一

平成 30 年度

教育研究員研究報告書  
小学校・特別活動

東京都教育委員会印刷物登録  
平成 30 年度 第 135 号

平成 31 年 3 月発行

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課  
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号  
電話番号 (03) 5320-6849  
印刷会社 康印刷株式会社